

ヒルフェ通信(9月号)

❖ そっと寄り添いやさしくサポート ❖

「公益社団法人成年後見支援センター
ヒルフェ」は高齢者、精神障がい者、知的
障がい者等の権利の擁護及び福祉の
増進に寄与することを目的として、東京都
行政書士会が設立した法人です。



◆行政書士後見関連4団体の合同研修が初めて行われました！

令和7年7月31日(木)、東京都行政書士会館地下講堂におきまして、東京都行政書士会市民法務部と、行政書士後見関連4団体((公社)コスモス成年後見サポートセンター、(一社)北海道成年後見支援センター、(特非)岡山成年後見サポートセンター、(公社)成年後見支援センターヒルフェ)共催による合同研修が初めて開催されました。

まずは、東京都行政書士会会長で、日本行政書士会連合会会長でもある宮本会長が公務中出張先からオンラインでご挨拶くださいました。(以下、法人は略称にて記載)その後、コスモスの田後理事長から開会のご挨拶をいただき、研修が始まりました。

講師は、日本成年後見法学会副理事長の司法書士 高橋弘先生です。「超高齢社会の日本からみた世界の成年後見制度ー我が国現状の課題と今後の方向性ー」というテーマで、成年後見制度の概要から始まり、制度に対してよく耳にする誤解について、そして成年後見制度の世界的な起源から世界の潮流、我が国の制度の現状と課題、世界の潮流への対応、今後の方向性など、グローバルな視点からのお話を含む、幅広い内容の講義をしていただきました。最後の質疑応答の時間も非常に活発で、予定時間をオーバーするほどでした。



ライブでの受講者は、ヒルフェを含む東京会の会員はもちろん、コスモスやおかサポからは役員以外の会員もおいでになり、オンラインでの受講者も600人を超え、関心の高さがうかがえました。

最後に、各団体の理事長からご挨拶があり、それぞれが今後もこのような共催事業を継続して行っていこうという共通認識の元、合同研修会は閉会となりました。講義の内容もちろんですが、初めての共催事業という大変意義深い研修となりました。
(ヒルフェ 広報理事 高山久美子)

◆地区連絡協議会が開催されました

8月1日(金)午後2時から令和7年度地区連絡協議会が今年も開催されました。本会議は、平成25年に地区リーダー会議としてはじめて以来、33地区の地区リーダーが一堂に会する場として年に一度、行われています。

開会に先立ち、齊藤志郎理事長よりのご挨拶から始まり、第1部では、ヒルフェの対外的な活動、地区活動の趣旨について佐々木正彦副理事長から、地区ブロック担当理事である田中健夫理事から地区活動費請求についての具体例を取り上げての解説後、財務部・総務部・研修部・広報部・後見事業部・法人後見事業部それぞれの担当理事より各部からの説明・ご案内と続き、第1部の締めくくりとして地区活動の活性化を図るための助成金制度について、大津敏久常任理事からの説明がなされました。

休憩をはさみ、第2部ではまず、地区ブロック活動統括の大津常任理事より地区・ブロック担当の活動支援に向けてと題し、成年後見制度の見直しに向けた民法(成年後見等関係)等の改正に関する中間試案についての動向についての解説や直近の成年後見事件概況などのお話がありました後は、全地区リーダーがそれぞれ地区活動の現状についての報告・今後の活動計画や展望などを発表いただく情報交換に移り、地区毎の事情・課題がある中でも各地区が創意工夫をされながら活動を続けられていることについて、地区ブロック活動担当理事との活発な意見交換が繰り広げられ、今後の地区活動についてのありかたを考えていく貴重な時間となり、予定時間を大きく過ぎてしまう程の盛会となりました。全地区からの報告終了後、東村次郎専務理事から総括、西村公一副理事長の閉会の言葉で終了となりました。

地区活動は、ヒルフェの活動の根幹であり、地域特性によってなかなか活動が困難な状況にある地区などさまざまありますが、日頃からの各地区の不断努力で、首長申し立てを受任したり、社協からの相談やセミナーの依頼を受けたりといった報告も着実に増えていることを実感することができた会議となりました。

(地区ブロック活動担当理事 古林孝一)